

シンガポール雑感

高部英明

【本記事は、2015年1月6日から11日まで開催された、The 9th International Conference on Computational Physics (ICCP-9)に、International Science Advisory Committeeの委員として、同時に、Steve (マレーシア留学生、D2)、Ren (シンガポール留学生、M2)の発表に同伴を兼ねて出席のため、滞在した際の印象をまとめたものである】

1. はじめに

シンガポールは、西ドイツ、米国での2年間の滞在から1982年に帰国して、80年代に欧州に出張の際、複数回経由した。当時はシンガポール航空が欧州便を売り出していて、サービスが良く安いというので皆もよく使っていた。まだ、冷戦時代だから、今の様に旧ソ連の上を飛ぶなど考えられず、南回りか、アンカレッジで給油する北極回りかしか無かった。平和は欧州との時間を半分にしてくれた。ソ連崩壊万歳。

覚えているのは、80年代に、航空機乗り換えのために一泊したこと。ちょうどクリスマス・シーズンで南国のクリスマスを見た。安い旅券のため「宿泊費は含まれていません」と言われ、空港内の旅行代理店に並び、何も情報無いままにホテル予約をすることになった。そこで、後ろに並んでいる紳士の方に聞いてみた。「初めてなのですが、どこかホテル推薦してください」と。すると、彼は「私は良く来ます。毎回、マンダリン・ホテルを使っている。とても良いですよ」と返事があった。そこで、彼に同行することにした。後でわかったことだが、彼は、台湾の方で放射線医療関係の医者であった。マンダリン・ホテルは五星ホテルだが、当時は途上国で、安かった。「途上国に来たら最高級ホテルに泊まるべし」と教訓を得た。

「夕食を一緒にしよう。美味しいところに連れて行ってあげよう」と、中華料理を共にした記憶がある。彼と色々会話したが、当時、日本の総選挙の後で日本共産党が飛躍的に議席を増やし、そのことを彼が大変心配していたのを覚えている。食事を終えようとする「Be my guest」と強く言われ、見ず知らずの方に美味しい晚餐をごちそうになった。

会議が目的で来たのは2007年にアジア太平洋物理学会連合のプラズマ物理部門年会(DPP conf.)の試みをした時だ。現地の南洋工科大学のShuyan Xuがホストで、会議の試みをした。彼の提案でノーベル賞学者C. N. Yang (35歳で受賞)の85歳の誕生記念国際会議



C. N. Yang と夫人。結婚当時。

の一部とした。彼は 82 歳で 28 歳の女性と結婚したばかりで、奥さんも連れてきた。それより、Yang の博識にはとても驚いた。素粒子から物性まで、世界中から集まった彼に関係ある研究者達の講演に、必ず、的確な質問やコメントをしていたので感心した。

会議(DPP-Conf.)には日本から 3 名が参加した。会議の後、3人で、マー・ライオン近くの川沿いのレストランでドラゴンボート競技を観戦しながら昼食を取った。飛行機待ちの時間に、3 時間は喋りながら、たらふく食べて飲んだ。安かった記憶がある。その後、セントーサ島の南端で、向かいにインドネシアを見る狭いシンガポール海峡に長蛇の列を成すタンカーなどの大型船を見ながら 3 時間、太陽に照らされながらゆっくり寝そべっていたのを良く覚えている。

その後、妻と 2012 年 2 月末に国際会議の招待講演のために滞在。その際、この川沿いの沢山並ぶ店の一店を選び夕食をしたら、偉い高くなっているのが驚いた。利用した店をガイドブックに妻が赤丸を付け、それを、次に利用した息子達が大変な目に遭った。息子が研究室の教授達とシンガポールに会議できて、会議も終わり打ち上げに同じ所に来た。息子が何となく「母が丸印を着けていますね。お勧めだと思います」と同じ店を利用した。料金表も見ずに飲んで食べて打ち上げは終了。5 名で 23 万円を請求されたそう。2010 年頃から物価が急上昇し始めた。

次の機会に、タクシーの運転手に理由を聞いた。中国本土で、賄賂で私服を肥やした連中が、そろそろ摘発されそうだというので、シンガポールに移住してくる。シンガポール政府も「財産」がある一定以上の華人は優先的に受け入れる。彼等は手つかずの島の西部に需要に応えるべく建設された広いマンションを購入して入国してくる。その数は数十万人にも達する。その結果、国内物価が高騰してきた。すでに、今日、シンガポールの物価は東京より高い。偶然、今日買った AERA に物価比較があった。ビッグマック、東京 360 円が 477 円、スタバ 280 円が 392 円。大卒初任給、東京 20.4 万円が 24.5 万円。ただし、タクシーや電車などはまだシンガポールの方が安い。

シンガポールは複合人種国家。華人が 75%、マレー系 15%、インド系 8%、残りはその他の民族。マレーシアから 1965 年に独立した。独立前からリー・クアンユー首相の下、都市国家として厳しい法治の元で急速な経済成長を遂げてきた。1990 年には途上国から先進国の仲間入り。マレーシアのマレー人優遇制度に反発し、独立。この国は政治、経済、学術など主なところは全て中華系（華人）が支配している。政治も民主主義だが、一党が独立後、今まで常に与党。現在はリー・クアンユーの息子が首相。至る所に 20~30 階建てのマンションがある。全て国がアパートを建設し、国民は土地を 100 年契約で借りて、アパートを買う。国民の 85%が国営のアパートに住んでいる。平均 90~100 平米のアパート。



国が作ったアパートの一例。100 平米近い快適なマンションを供給している。

最近の中国本土からの移民は広いアパートに住みたがり、日本の大成建設などが島西部にニーズに応じたマンションを建設している。建設労働者はインド人。彼等は建築現場のプレハブで暮らす。2年も働くと、インドに帰国して家を建ててお金貯まるそう。また、かなりの家庭がメイド (maid とせず、domestic helper と呼ぶ) を住み込みで雇用している。3食、部屋付きで、月額4万円程度と安い。インドネシア、フィリピンなどから雇用。2年契約が基本。紹介業者が沢山いる。

2. 国際会議

今回の国際会議は、1988年にHe (賀) さん達、北京のIAPCM研究所(Institute for Applied Physics and Computational Mathematics)が開始したICCP(International Conference on Computational Physics)の第9回目である。HPは

ICCP-9 <http://www.physics.nus.edu.sg/iccp9/>

私は第7回から国際科学諮問委員会(Int'l Science Advisory Committee : ISAC)の委員を仰せつかり、参加している。Heさんは70歳を迎える院士(科学アカデミー会員)。私が1997年にIAPCMに一週間講義を依頼され招待された時の中国レーザー核融合のボスである。彼はこれ以外にも2件の別の国際会議を昨年主催し、私は招待後援を蘇州(3月)、北京(9月)で行った。とても仲良くしている。顔を合わすと彼は私に米国リバモア研のNIF点火実験の現状を聞いてくる。私は中国の核融合の動きを聞く。

この会議には私のグループの2名の留学生が成果を報告するため同行した。SteveはD2でマレーシア、RenはシンガポールでM2である。Renに航空券の手配を頼んだら、シンガポール航空の往復便を1人、5万2千円で手に入れてくれた。驚き。夜、12時半発で、時差1時間のシンガポールに朝の5時半に着く。どんな機中でも私は眠れない質で、映画を3本は見た。中井貴一主演、浅田次郎原作の「栲榴坂、、、」の話はなかなか良かった。

会議場は今やアジアのUniv. ranking No. 1の国立シンガポール大学(NUS)。初日に京大の大和田さんと知り合う。なかなか元気で英語の上手な方。流体計算が運動論(Kinetics)をどう取り込むかに向かっていることを知り、「行くべき方向に進んでいる」と感心、納得。4年前に北京で開催のICCP-7にやはりISACのメンバーで参加した。議長のHeさんから「この会議は中国の若手に国際会議で報告する機会を与えるのも大きな目的。だから、中華圏で開催している」と言われ、確かにつたない報告も多く、意義を納得していた。

しかし、今回の会議に来て、500人越え、37カ国からの参加者には驚いた。たぶん、9割が中国、台湾と世界中に散らばる華人



3日目のバンケット。前列が左からHe氏とFeng議長

の参加。4年前と違うのは、中国の若者の報告はまだ、独創性では課題が残るにしても、世界の最先端の複雑な計算技法をコピーできる力を身に付けてきていること。やはり、中国で10倍以上の若手が物理のあらゆる分野の計算科学の最先端を研究しているのは「脅威」です。「中華パワー、恐るべし」と、改めて思い知らされた。この意味で、私には大変刺激的な会議だった。

夜は、参加した10名ほどのISAC委員を集め、運営委員会を開催。近くのレストランで食事をしながら。次回の開催地としてマカオ大学が提案された。実は事前に議長のHeさんが「次回はマカオ大学を考えているがお前はどうか」と聞かれたので、「大賛成だ」と答えた。だから私も提案者になった。マカオ大学には長年の友Chuang Liu(米国メリーランド大学、台湾の中央大学名誉学長)が着任した。9月に北京で会った際「マカオ大学に移った。遊びに来い」と言われていた。

次回の開催地やそこでの受け入れ体制などに話しが及ぶと、細かい話しは中国語で会話が進む。隣のモスクワLandau研究所の友人Levと「俺たち、どうしようもねえな。任せよう」と、雑談。彼がロシアのジョークだと教えてくれた。彼曰く「ロシアでは親たちが、子供の外国語として何語を勉強させるか喧しく議論している。楽道家は、それはもちろん英語だ、と言うが、そうでない者は、いや、中国語だ、という」。貴方はどちらが正しいと思いますか。さらに、最近のジョーク。メルケンとオバマとプーチンが同じホテルに泊まり、夢を見た。翌朝、朝食で顔を合わせた3人は、その夢を披露した。メルケンは「私は世界連邦の大統領になる夢を見た」。オバマは「私は宇宙連邦の大統領になっていた」。すると、プーチンが「俺は、お前達の夢をぶちこわす夢を見た」。

運営会議では私とLevがメンバーであるIUPAPのCCP国際会議(Conference on Computational Physics)との連携が議論された。CCPはIUPAP-C20: Computational Physics(<http://phycomp.technion.ac.il/~C20/origin.html>)が毎年開催しているICCPと同じ分野の会議。欧州・アフリカ、南北アメリカ、アジア・オセアニアの3極を毎年周りながら開催している。私が2012年10月に神戸の「京」スパコン横で議長でCCP2012を開催した関係で、こちらの委員も務めている。名前は中国に先を越されたので、2003年に中国で開催の時、CCPとICCPの合併が議論されようとしたが、不幸にもSARS騒ぎで会議が中止(部分開催)となり、両会議に溝が出来た。ほとぼりも冷め、どう協力するかを議論した。結論として互いに協力、CCPは今年がインド、次がパリ、次は変則的で南アフリカ、次が北米、と決まっている。そこで、2019年がアジア・オセアニアであるから、中国がICCPと合同開催することをCCPの運営委員会に提案する事で合意した。今年10月のインド・アッサムでのCCP会議で中国が提案する。

最終日に現地議長のFeng教授(NUS)がアナウンスした。次回はマカオ大学。2016年の10~12月。大学の関係者も大変喜んで歓迎してくれた。最近、第2キャンパスを中国本土にはみ出して建設したそうで、大学の宣伝効果も期待しているとのこと。マカオは今やカジノの年間利益はラスベガスを追い越したと聞いた。世界中の賭博企業が最新の施設を導入して来場者を待っている。計算科学のMonte Carloは賭博で勝つために考え出された数学だ。Monte Carloの専門家

はマカオで大もうけできるかな。

3. シンガポール

会議終了後、Ren が車で迎えに来てくれ、シンガポールで私達の知らないところを案内してくれた。彼の地元は東地区。大きなモールなどがある。妻の要求でその近くのレストランでチキンライスを食べる。有名だそ



うだ。確かに美味しい。ヒンディー寺院は改修中だったが、ゴ
テゴテの像は皆新しい。多数の神の神話に題材を取る。次は私が海を見たい、妻にタンカーの列を見せてあげたいと、東南の海岸公園に行く。遠方にインドネシアがはっきり見える。船は数珠つなぎ状態。Ren は、シンガポール港に荷を降ろすために並んでいるのではないかと。

シンガポールの南、インドネシアが迫る海峡は大型船ラッシュ。手前右はPark by the Bayの植物園の二つのドーム

リトル・インドは日曜日ですごい賑わい。Ren によると出稼ぎのインド人が日曜日に集まるそうだ。ここでも、ヒンディー寺院2棟とモスク1棟見学。マレーシアやインドなどと違い、裕福なせいか、寺院がととてもきれいなものには驚く。皆、宗教熱心だ。道教の寺もとてもきれい。道教の寺の横にヒンディー寺院が有り、ある人は、線香を持って両方にお参りしている。救いの神は多いに越したことはない。今回は妖艶・怪異なヒンディーの神々に魅せられた。是非、ヒンディー教の経典（神話）を読んでみたいと思うようになった。



たことはない。今回は妖艶・怪異なヒンディーの神々に魅せられた。是非、ヒンディー教の経典（神話）を読んでみたいと思うようになった。

ヒンディー寺院の中にはカラフルな妖艶で怪奇な像が沢山飾られている。この二人は中央の神を守る護衛兵（金剛力士2体に同じ）仏教もヒンディー教の一分派とヒンディーでは言う。

「アラビア通り」と言うからチャイナ・タウンのイスラム版かと思いきや、アラブ料理の店以外はほとんど中国人経営者の店。街もきれい。ここのモスクではおじいさんが丁寧にお参りの時間など教えてくれた。外観も大変きれい。周りの路地の感じも大変良い。駅の反対側には、所狭しと、沢山の小さな店が入る所があった。すごい活気で、色々な物を売っている。見るだけで楽しい。つい、旅の気持ちから、要らない物を買ってしまう。たぶん値切れば良いと思うのだが、安いので辞める。ここにも近くにモスク、仏教寺院、ヒンディー寺院とあり。皆、きれいで参拝者も多い。

Ren は南洋理工大学(NTU)を出て、2年ほど塾で物理を教えていた。教えることがとても好きだという。しかし、一度、長期に海外に出たいと思い、偶然、大阪大学 IPC を知り受験した。彼は複雑系の物理をやりたいと言ったが、時田君が名大に移動し、受け入れ教室がなかった。そこで、私が「俺の所でも磁気乱流による衝撃波構造形成という複雑系の研究が出来るぞ」と電話で話し、来ることになった。来る前に7年交際していた Fiona と結婚。彼女は関西外大に留学していたこともある。今は茨木市内の学校で英語を教えている。今回、彼と、色々話が出来た。本人は阪大で修士をこの9月に終えたら帰国し、2年程度は高校で物理を教える。その上で、仲間とも話し、塾を立ち上げたいそうである。



アラブ通りの有名なモスクを背景に買ったばかりの「自撮り機」で記念撮影。長い棒は妻が持っている。余りに多くの人が使っているなのでこの近くで買った。「50 ドル」というのを35 ドルに値切っているいい気になっていたら、バツモン市場では定価 20 ドルだった。

4. 最後に

とりとめのない報告になった。シンガポールは訪ねるのはこれで、トランジット以外では 6 回目。2004 年にアジア太平洋物理学会連合 (AAPPS: <http://www.aapps.org/main/>) の理事を拝命した。AAPPS に Plasma Physics 部門を設立し、活性化しようとしたことから、NTU の Shuyan Xu 教授を中国の友達から紹介され、交流が始まった。彼は Plasma 応用が専門。太陽光発電の高効率薄膜生成など研究している。「はじめに」に書いた様に彼に会議の主催を依頼し訪ねたのが始まり。その後、彼が主催する会議で基調講演を依頼されたりで、この魅力的な国を訪ねることを重ねた。前回は 2013 年 12 月に、彼の同僚でインド系の研究者主催の会議で招待講演のために訪ねた。バンケットでのインド踊りは印象的で大いに盛り上がった。

シンガポールでは基礎物理学の研究は予算化されていない。シンガポール政府の研究費は応用研究や実用化しかサポートしていない。従って、私が出る幕はないのだが、彼等からは「お前の講演は、会議の中味から外れているが、夢がある。基礎科学は会議の花火のような位置づけだ。是非来てくれ」と、依頼される。こちら景気の良い花火を上げたいと、講演内容を工夫する。そ



私と Ren (中央) Steve (右)。帰りの飛行機を待つゲートで。

んな関係だ。そして、Ren が 2013 年 10 月に研究室に来た。関係はより深まった。

シンガポールを人に説明する時、何時も以下の様に私の印象を語る。シンガポールは常に未来志向で、世界の未来都市のあり方を先導している。世界の価値観の変動に敏感で、それを国が直ぐに具現化できる。国が小さいと云う事は、変化を追いかけやすい。変化を作りやすい、発信しやすい。そして、民主国家であるが、選挙で結果としてリー・クァンユーの党を国民は 60 年間も支持してきた。それが、政策の迅速な実現を後押ししている。シンガポールは 1 年経つと様変わりする。新名所が毎年誕生する。だから、女房は 3 回目の訪問だが、ガイドブックは 1 年前のものは捨て、最新号を 3 冊も買って情報集めをする。

最終日、歩き疲れたところで地下鉄の乗り換えをする通路に床屋が有り、「カットのみ、通常 10 ドル、今日は 5 ドル」と書いてあった。そこで、椅子に座り、散髪をした。バリカンでシンガポール風の刈り上げ頭になった。Ren は、次にシンガポールに来る時は何時でも知らせてほしい、まだまだ、見せたいところがあると言う。教えることに彼がすごい情熱を持っていることに驚いた。私もそのつもりで彼とこれから接したい。彼の塾設立が成功することを祈りたい。

最後に悲話で申し訳ない。シンガポール滞在中に知人から旧友の渡邊君が亡くなった知らせをメールで頂いた。渡邊君とは、私が修士課程に名大の物理学専攻に国内留学していた時、1 年間机を並べていた親友である。本場のコーヒーの味は彼に教えられたし、「渡邊君」「高部ちゃん」の仲だった。地球シミュレータの関係で、旧交が復活し、飲む機会もあった。その彼が、昨年、地球シミュレータ・センター長から海洋機構の参与になり、突然の正月の悪夢になったそうだ。大阪の宗右衛門町近くの生まれで、都会育ちの如才ない奴。僕の良き相談相手でもあり、理解者でもあった。2012 年の夏頃、CCP2012 の運転資金をお願いした。「京」利用の戦略 6 分野の一部門の長であった彼にブース出店での会議支援金を高額にお願いし、気持ち良く引き受けてもらった。お陰で、他の 5 分野も同じく参加してくれた。その電話で話したのが最後だった。彼の冥福を祈りたい。

付録

高部は気が向けば旅行記など書いて公開しています。堅い話でなく、仕事で訪ねた会議の概要や、土地の人や街や政治などの情報提供です。以下の HP にほとんど掲載しています。ご自由に読んでみてください。

<http://homepage2.nifty.com/AkiTakabe/>

海外旅行記はこのページの「海外印象記」をクリック。



最近のシンガポール中心街

夜8時になると、噴水と水のスクリーン上での映像ショーが始まる。見るのは2回目。手前に広いテラスが有り、そこに座って見学。後ろは上の三つ足高層ホテル。

